

令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添	なし
----	----

応募概要	分野	伝統芸能	種目	演芸
	応募区分	一般区分		
	複数応募の有無	無	応募総企画数	
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※			

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要

ふりがな	こうえきしゃだんほうじん らくごげいじゅつきょうかい		
制作団体名	公益社団法人 落語芸術協会		
代表者職・氏名	会長 田ノ下雄二		団体ウェブサイトURL
	https://www.geikyo.com		
制作団体所在地	〒	160-0023	最寄駅(バス停)
	西新宿		
制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック	<input checked="" type="checkbox"/> ※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です		
ふりがな			
公演団体名			
代表者職・氏名			団体ウェブサイトURL
公演団体所在地	〒		最寄駅(バス停)
制作団体 設立年月	昭和5年10月		
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等
	代表理事(会長)/春風亭昇太 理事 他17名 監事 3名		団体構成員:241名 加入条件:落語および落語以外の寄席芸能実演家 で3年以上の経験を有する者。
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者を置く	本事業担当者名	伊藤崇将
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	田澤祐一
本応募にかかる連絡先	メールアドレス		電話番号
	ito@geikyo.com ito110geikyo@gmail.com		0359093080

制作団体の実績

制作団体沿革・主な受賞歴	<p>昭和05年 会長春風亭柳橋(先々代)、副会長柳家金語楼が日本芸術協会を設立。</p> <p>昭和09年 柳亭左楽が会長を務める落語睦会を合同する。その後桂小文治(先代)が副会長となる。</p> <p>昭和49年 古今亭今輔(先代)が会長に就任。</p> <p>昭和51年 桂米丸が会長に春風亭柳昇が副会長に就任。</p> <p>昭和52年 文化庁より社団法人の認可を受け、社団法人落語芸術協会と改称。</p> <p>平成11年 桂文治(先代)が会長、桂歌丸が副会長に就任。</p> <p>平成16年 桂歌丸が会長、三遊亭小遊三が副会長に就任。</p> <p>平成23年 4月 1日 公益社団法人の認可が下り、公益社団法人落語芸術協会と改称。</p> <p>平成30年 7月 2日 会長桂歌丸が死去。平成30年6月総会にて、三遊亭小遊三の会長代理兼任が決まっていたため、代表理事として三遊亭小遊三が会長代行を務めた。</p> <p>平成元年 6月27日 春風亭昇太が会長に、春風亭柳橋が副会長に就任。現在に至る。</p>
学校等における公演実績	<p>当事業にて平成15年より全国各地で毎年平均20校程度巡回公演を実施。</p> <p>台東区の小学校約20校を対象に、浅草演芸ホールにて平成16年から毎年数十日公演。</p> <p>横浜市の小学校約20校を対象に、横浜にぎわい座にて平成17年から6月・10月頃に5日間程度ずつ公演。</p> <p>平成27年からは東京都アーツカウンシル事業、平成28年からは新宿区・東京オリンピック・パラリンピックを契機とした伝統文化理解教育で各10～15校程度公演を実施。</p> <p>依頼公演としては、平成28年10月江戸川区小岩小学校、平成29年柏市立松葉第一小学校、平成29年6月日大山形高等学校、平成30年10月横須賀市立神明小学校、大森学園高等学校、令和元年7月慶應義塾湘南藤沢中等部・高等部、令和5年6月学習院初等科、令和6年青山学院中等部、上野原市立上野原中学校、令和7年4月東洋大牛久中学校、7月岐阜県立飛騨高山高等学校等。</p> <p>(記載のない年も多数実施しており、毎年継続している学校もあり実績を積んでおります)</p>
特別支援学校等における公演実績	<p>平成22年03月 広島県立広島特別支援学校</p> <p>平成22年11月 長崎市立桜が丘特別支援学校</p> <p>平成25年02月 北海道帯広盲学校</p> <p>平成28年01月 都立矢口特別支援学校</p> <p>平成28年09月 南大沢学園特別支援学校</p> <p>平成29年06月 都立江東特別支援学校</p> <p>平成29年07月 都立品川特別支援学校</p> <p>平成29年09月 南大沢学園特別支援学校</p> <p>平成29年12月 葛飾区立保田しおさい学校</p> <p>平成30年07月 都立品川特別支援学校</p> <p>令和03年07月 中野区立第二中学校特別支援学級</p> <p>令和03年12月 福島県立相馬支援学校</p>

参考資料	申請する演目のWEB公開資料	有	
	※公開資料有の場合URL		
	※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード	ID:	
		PW:	

別添

なし

【公演団体名 公益社団法人 落語芸術協会 】

本公演・ワークショップの内容

対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○
企画名	「寄席」を実体験！～着物で演じて太鼓を叩いて「よっ日本一！」～			
企画のねらい	代々受け継がれている落語を、生で鑑賞しその楽しさと迫力を感じてもらい、敷居が高いと思われがちな伝統芸能が親しみやすく笑える楽しいものである事を知り、その他の芸能や演目への興味を深め知見を高めるきっかけになるよう実施します。 長い期間の修行を経た落語家が落語の成り立ちから人物の演じ方や仕ぐさの解説、寄席囃子の実演や太鼓を始めとする鳴り物の意味を説明し、江戸時代から変わらない自分の頭の中で想像して聞き楽しむ話芸に触れて、本物の寄席演芸を実体験してもらいます。 公演では代表の子ども達に紋付袴を着付けして、本格的な寄席のセットを組んだ高座で短い小唄と太鼓の発表を行い、舞台上に立つ緊張や難しさ、同じ学校の子ども達から笑いをとる感覚を体験します。			
演目概要・演目選択理由	落語は基本的に演目を決めず、その時のお客様の状況を見て演者が決めるため、何百席あると言われる古典落語の中から学校公演でよく演じられ、落語を初めて鑑賞する子供にも受け入れられやすいネタを演じます。 登場人物も落語に出てくる典型的な人物で分かりやすく表情やしぐさも面白く、悪いことを企んだり実行した人間には罰が当たり、正直者が報われることを感じられる内容です。 ※学校からの希望があれば、教科書に載っていたり学校教育によく取り上げられている演目も口演いたします。			
児童・生徒の参加または体験の形態	●落語(小唄)での共演 公演内で児童・生徒の代表に短い落語(小唄)を高座で披露してもらい共演する。この際、和服・袴を着用し、高座返し・めぐり返しなど普段前座がやっている役割を担い出演者の一員として共演する。ワークショップでは参加者全員でしぐさ等と一緒に行う。 ●出囃子(太鼓)での共演 ※落語(小唄)代表児童の出囃子の太鼓を演奏 上記の落語(小唄)発表の出囃子を、代表児童・生徒が太鼓演奏を行い、舞台上で当協会のお囃子 と共演する。この際、和服・袴を着用し、出演者の一員として共演する。ワークショップではその場でヒザを軽く叩き、参加者全員で太鼓の手を体験します。			
児童・生徒の参加可能人数	本公演		参加・体験人数目安	6名(落語小唄3名、出囃子太鼓3名)
			鑑賞人数目安	300名程度
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	上記の演目選択理由でも記載しましたが、演目は古典落語の中からわかりやすいネタを落語家が当日決めます。 ●「転失気」 ●「つる」など、子供たちにも理解しやすい演目を予定。 原作:古典落語のほとんどの演目は、原作者不明とされている。 脚本:この落語会で演じられる古典落語は、江戸時代から継承される口演台本があるが、必ずしも全てが明文化されているわけではなく、ほとんどが師匠などからの口伝によるものである。 演出:師匠から教わったものを基本として、演者それぞれ経験からしぐさや言い回しを工夫し、自ら演出する場合がほとんどである。 ※古典落語は口伝により自由に演じられることで大衆に広まってきた背景もあり、慣例から口演することに関して著作権は特にない。			
公演時間	90	分		
出演者	①落語 [前 座] 三笑亭 夢ひろ(予定) ②落語 [二ツ目] 笑福亭 茶光(予定) ～仲入り(休憩)～ ③曲芸 鏡味 小吋(予定) ④落語 [真 打] 春風亭 柳雀(予定) 他 お囃子1名			
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	◇春風亭 柳雀[真打](予定) 2008年 瀧川鯉昇に入門。2012年 二ツ目昇進。2022年5月 真打昇進。 ◇笑福亭 茶光[二ツ目](予定) 2015年 笑福亭鶴光に入門。2019年 二ツ目昇進。 ◇鏡味 正二郎[色物・太神楽曲芸](予定) 2014年 第七期国立劇場太神楽研修修了後、鏡味勇二郎に入門。			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数 含む	出演者:	6	名	運搬 積載量: 1 t 車 長: 4 m 台 数: 1～2 台
	スタッフ:	4	名	
	合 計:	10	名	

本公演 会場設営の所要 時間 (タイムスケジュー ル)の目安	前日仕込		無		前日仕込所要時間				時間程度
	到着	仕込		上演	内休憩	撤去		退出	
	9時	9時～11時30分		13時30分～ 15時10分	10分	15時30分～17時		17時	
	※本公演時間の目安は、概ね2時限分程度です。								
本公演 実施可能日数 目安 <small>※実施可能時期につ いては、採択決定後 に再度確認します(大 幅な変更は認められ ません)。</small>	6月		7月		8月		9月		
	10日		5日				10日		
	10月		11月		12月		1月		
	15日		15日		10日				
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。				計		65日		
公演に係るビジュ アルイメージ (舞台の規模や演出 がわかる写真)	   								
	<p>※会場条件につ いて最低限必要 な条件がある場 合には、様式 No.4内「会場簡</p> <p>体育館ステージ上に寄席舞台を設営します。各学校に合わせて調整可能ですので、広さに 指定はございません。</p> <p>【出演者番組】予定</p> <p>①落語（前座） 三笑亭夢ひろ</p> <p>②落語（二ツ目）笑福亭茶光</p> <p>～仲入り(休憩)～</p> <p>③曲芸 鏡味小時</p> <p>④落語（真打） 春風亭柳雀</p> <p>他 お囃子1名</p>								
著作権、上演権等 の許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続の要 否			該当なし		該当コンテンツ名			
	該当事項がある 場合		権利者名		許諾確認状況				

別添

なし

【公演団体名 公益社団法人 落語芸術協会 】

ワークショップの
ねらい

直に落語家と接することにより、修行を積んだ落語家の声の発声や人物の演じ分け、会話の間合いや落語のオチというものを実感してもらい、物事を他人に伝えるにはどう工夫したら良いかを自ずと考える機会になる。実際に高座を体験すると、緊張も含めて人前で話したり演じたりすることの難しさや伝わった時の喜びを感じることができ、自信を持ちコミュニケーション能力の向上にも繋がると考えている。和服姿の落語家を間近に見て、着物と和服への関心も高まる。

また出囃子の太鼓を叩く際に、各落語家にそれぞれ違う出囃子がある文化を伝え、高座へ上がる代表生徒児童が出やすいように叩くことを教えて、他者への配慮や気配りを経験してもらう。

三味線と太鼓の演奏を間近で聴き体験することで、和の伝統音楽にも関心が持てる。

児童・生徒の
参加可能人数

ワークショップ

参加人数目安

300名程度

ワーク
ショ
ップ
の
内
容ワークショップ
実施形態及び内容

着物姿のプロの落語家が高座の座布団に座り、落語の成り立ちや演じ方などの落語解説、所作や扇子と手拭いの道具の説明を行い、参加している全ての生徒・児童と先生も一緒に同じ所作を体験してもらう。何を表現しているのかクイズ形式のやり取りも行い、一部線香即席噺(会話のみの短い小噺)を演じる。演じる際に右と左で人物が変わる「上下(かみしも)」を解説し、その意味や上手・下手で登場人物の関係性が変わる事など詳細に説明する。

三味線と太鼓で演奏する出囃子や鳴り物の実演と解説。一番太鼓・二番太鼓・追い出し太鼓などの寄席で演奏されている太鼓の実演、落語の中での効果音、各落語家の出囃子を演奏。

上記で解説した扇子や手拭いを使った所作や小噺、出囃子の太鼓を希望者に体験してもらう。

本公演で発表をする代表児童・生徒への指導を行う。時間があれば落語一席を実演する。

実施場所は多目的ルームなどのコンパクトで集中できる環境が適しているが、参加人数や学校の希望などに沿う形で、体育館での実施も可能。長机などを利用して簡易的な高座を設営し、上記の通り希望者には高座に上がり体験してもらう。

【内容】

■講師(真打及び二ツ目の落語家)の紹介～落語解説 「落語」ってどういうもの？など簡単に説明

■小噺(短め) いくつか講師が実演

■所作 落語のしぐさ 講師が扇子と手拭いで落語の代表的なしぐさ(本を読む・財布からお金を出す・箸を使う・刀を抜く等)を実演

☆体験 参加している全員がその場で一緒に蕎麦を食べるなど、しぐさを一緒に演じる。希望者や講師からの指名で何人か実際に高座に上がってしぐさや小噺(短め)を演じる

■本公演代表(落語小噺)へのアドバイス等

講師が本公演でする小噺を一部実演して、代表3名に要点を教える。

高座(座布団)返しも教え、座布団の三方の説明と使い方(切れ目を相手に向けない)を伝える。

～休憩(5分～10分)～ ここまでおよそ45分

■鳴り物 太鼓・出囃子など 落語家が高座に上がるときに流れる音楽(出囃子)や始まり終わりの合図(太鼓)について解説

・一番太鼓、二番太鼓、追い出し太鼓、落語の中での効果音としての太鼓を説明

・出囃子の解説 お囃子(三味線奏者)の曲に合わせて、いくつか講師が太鼓を実演

☆体験 参加している全員がその場で出囃子の三味線に合わせてヒザを叩いて太鼓のリズムを覚える。希望者には実際に太鼓を体験してもらう

■本公演代表(出囃子太鼓)へのアドバイス

太鼓代表は三味線に合わせて太鼓を叩いて練習する。強弱やリズムをお囃子さんと協力して叩くことで、息を合わせて演奏することを体験する。

その他ワークショップに
関する特記事項等

本公演で小噺と太鼓の代表発表をする児童生徒にワークショップ内で指導を行うが、時間に制限がある中での実施になるため、学校にビデオカメラやタブレット等を準備していただき落語家の実演を録画して、本公演まで個々に練習をしてもらうことをお願いしている。

視覚障害の児童生徒に対しては、ワークショップ・本公演ともに丁寧に状況を説明し、様子が想像しやすいよう工夫する。落語は聞いた内容を想像して楽しむことができるので特に問題ないと思われるが、本公演内の演芸に関しては目で見て楽しむ物(太神楽・奇術など)から耳で聴いて楽しめるもの(動物ものまねなど)に差し替えるなど学校の状況と確認しながら調整する。

聴覚障害の児童生徒に対しては、学校の先生と相談しながら落語の内容が事前にわかる工夫などを行い、鑑賞を楽しめるようにする。

一般区分・特別エリア区分共通
No.4(共通)

別添	なし
----	----

【公演団体名 公益社団法人 落語芸術協会 】

記載方法等

例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。

- ・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかった。
- ・搬入車両が構内に入らず、搬入のための追加費用が生じてしまった。
- ・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまった。

上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。

任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。

詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただくことになります。

なお、特段条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。

会場条件

(必須)	公演実施にあたり、必要な会場条件を記載してください。						
会場の設置階の制限		2F以上応相談		主幹引き込み電源容量			30 A以上
舞台設置面積	間口	指定なし	m	奥行	指定なし	m	
	高さ	指定なし	m				
舞台設置場所	フロア対応	条件が合えば可		学校のステージでの対応		可	
搬入間口の広さ	幅	1.8 m		高さ	1.8 m		
遮光の要否	7割程度必要		緞帳の要否			有無のみ確認したい	
ピアノの使用について	使用しない		ピアノを使用する場合の設置位置の指定				
			ピアノを使用しない場合の移動の要否			要	
搬入車両(トラック等)の横づけ	応相談		トラック横づけ不可の場合の搬入対応可能距離			30 m以内	
搬入車両の種類	ハイエース		台数	2 台			
搬入車両の大きさ	車幅	1.88 m		車長	5.38 m		
備考	舞台設置場所は面積よりも高さ(正座した落語家の膝より上が見える)が重要で、児童・生徒が座るフロアと同じ高さだと鑑賞する人数によって後方が非常に見えづらくなるため、会場に舞台が無い場合は要相談になります。						

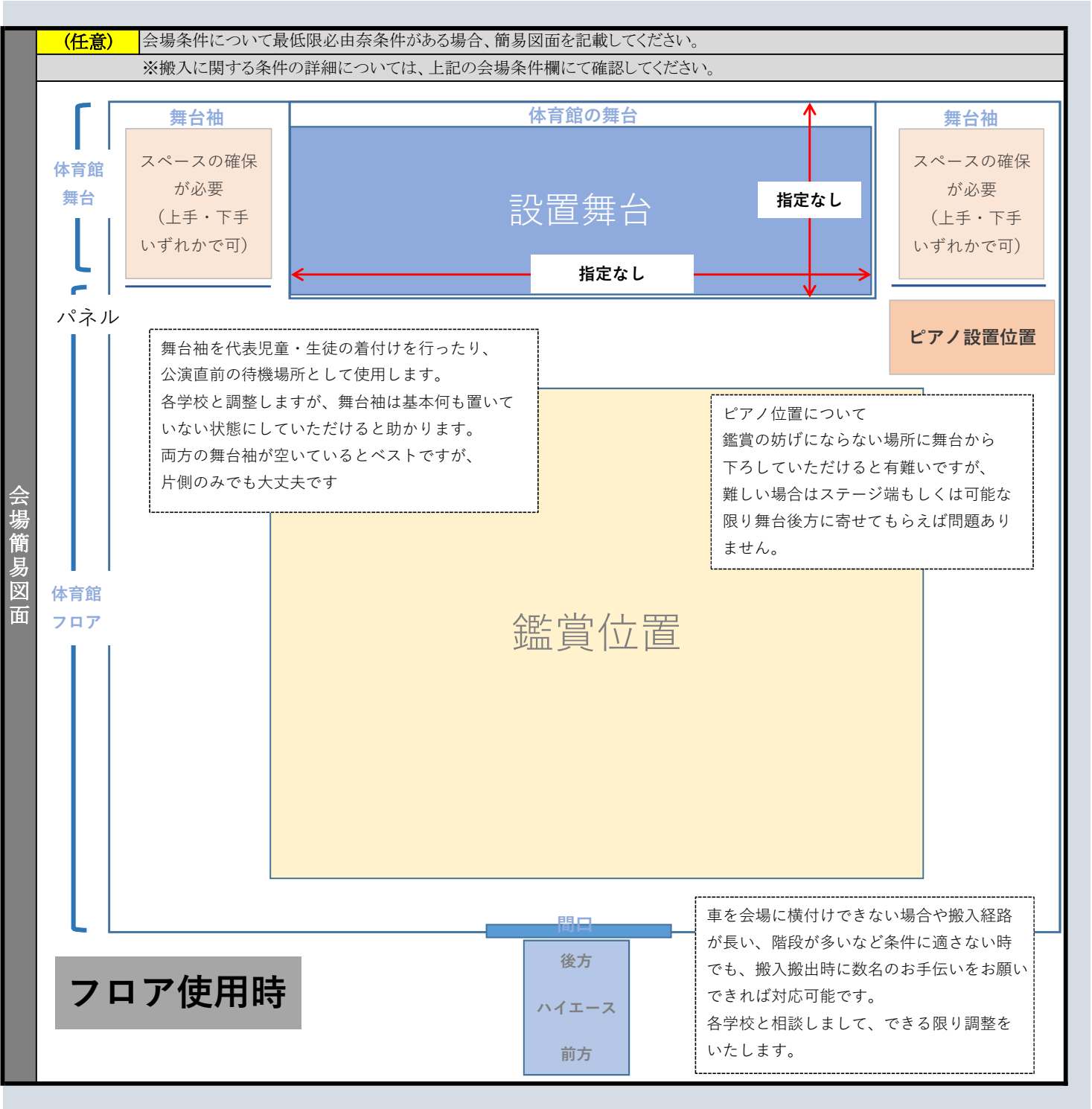
※表から数値を取得しますので、セルの結合や行の挿入・削除は行わないでください(幅や高さの調整は問題ありません)。

学校からの情報

(任意)	学校からの提出を求める資料がある場合のみ記入してください。	
会場図面の提出要否	要	
その他提出が必要な資料 (搬入間口や搬入経路の写真の提出等)		

時間外対応	(任意)	万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合については、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。				
	なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。					
	※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。					
		対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
	ワークショップ					
	ワークショップ					
	本公演	共演、参加又は体験対象となる児童・生徒	60分	公演前	・着物と袴の着付け ・舞台上での小唄と太鼓のリハーサル	代表児童(小唄3名・太鼓3名)のみ対象になります。
	本公演					

個別確認事項	(任意)	上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。	
		個別ヒアリング事項	
	1		
	2		
	3		



別添

なし

【公演団体名 公益社団法人 落語芸術協会 】

本事業への応募理由等

本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫

【本事業を通じて実現したいこと】

難しいと思われがちな落語を生で鑑賞することにより、古典芸能と呼ばれる演芸がとても楽しく親しみやすくものである事を子ども達に知ってもらう。

成立したから江戸時代から現在まで落語家は着物姿と座布団に正座した形で1人で何人もの登場人物を演じ分け、扇子と手拭いのみを使っているいろいろなものを表現する。受け手側は想像力を働かせ、どんな性格の人物なのか周りの状況や情景を頭の中で描きながら落語を楽しむ。子どもたちにメディアやSNSなどの視覚のみで楽しむエンターテインメントだけでなく、想像力を使つての芸能の楽しみ方を経験し、生の舞台鑑賞への興味を高めることを実現させたい。

落語を知ることで、人に物事を伝える工夫などを感じ取り、コミュニケーション力の向上にも繋がってくと考えている。子供のうちから本物の落語の素晴らしさを伝え興味を持つきっかけとなり、落語や演芸の普及にも役立たせたい。本格的な寄席囲いのセットを設営し、三味線と太鼓を下座で生演奏し、前座→二ツ目→色物→真打という東京の寄席と同じ流れで口演する事により、各学校で東京の常設の寄席と同じ進行で鑑賞する事の体験が実現できる。

この事業への参加を継続していくことで、「大衆文化」としての落語を改めて身近に感じることでできる土壌作りとして役立て活動を行っていききたい。

【上記の実現に向けて、実施の工夫】

ワークショップ・本公演の概要をまとめた資料を事前に送り、その後、学校と連絡を取り合う中で調整しながら、開催校の要望や状況に合わせて柔軟に対応できるように準備を進める。

ワークショップでは会場に簡単な高座を設営し、少しだけ特別な場所を演出する。太鼓も本公演に近い「吊り太鼓」で体験できるよう、組み立て式の木枠を作成し準備。体験の子どもたちは高座に上がることによって、落語家が普段見ている景色を体感し、人前に出て話すことの大変さ、落語を演じることの難しさを知ると同時に、それをやり切ったことで達成感や自身にもつながる。他にもみんなで一緒にしぐさや太鼓の手を真似たり、クイズ形式を取り入れ、できるだけ全員の参加・体験ができ、みんなで楽しめる内容になるように考えている。

本公演では、代表の児童・生徒が楽しく演じることができるようリハーサルでポイントをアドバイスし盛り上げて、自信を持って発表できるよう努める。普段皆で使っている体育館のステージに本格的な寄席の舞台セットを設営し、自分たちの学校でありながら非日常的な空間で集中して鑑賞できるようにする。演目は中学校の場合は少し難しいものを選ぶなど学校に合わせて番組を工夫する。

事業を適切かつ円滑に実施するための工夫

【学校との連絡調整について】

生の落語に触れることが少ない現在では、落語の公演のイメージが口頭では伝わらない事も多い。過去の公演の写真や番組(プログラム)を多用した資料を決定直後にお送りし、落語と寄席演芸の理解を深めていただく。

公演日時は学校側の希望を優先しながら、こちらの都合と併せて日程調整を行う。

訪問する出演者やスタッフの人数と氏名を事前の早い時期に連絡する。

ワークショップではお借りする物や使用する太鼓等の送付、本公演では舞台・音響スタッフが早めに訪問することなど協力してもらう事があるため、まとめて早めに連絡を行う。

【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】

落語(小噺)と太鼓の代表発表で、習熟度や理解は各児童・生徒によって変わるため、その児童・生徒に合ったアドバイスを行う。

実質的な指導の時間は短いため、落語を演じる上でのコツのようなものを簡潔に伝える。

- ・人物を演じ分ける右左に向く顔の位置、目線、声の張り方 等
- ・太鼓の演奏の始め方、終わり方。落語(小噺)の演者がしやすいテンポや大きさ 等

特にワークショップでは、代表児童・生徒や高座に上がった人以外の参加者を飽きさせないように、迎え手・送り手(演者が出る・降りる際の拍手)を全員で行うなど工夫をする。

【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】

図書館にある落語の本を事前に先生に確認し、そこに入っている演目を演じて公演後も本で再度読んで確認できるようにする。実際に生で聴いた落語と本で読む落語の違いなども学べる。

生徒の感想で送られてきた物で、質問等があれば可能な限り対応する。